

様式第10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
西海市	西海市	平成25年度～平成29年度	平成25年度～平成29年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現状 (割合※1) (平成23年度)	目標 (割合※1) (平成30年度) A	実績 (割合※1) (平成30年度) B	実績 B /目標 A	
排出量	事業系 総排出量	2,258 t	1,205 t (-46.6 %)	1,885 t (-16.5 %)	156.4 %
	1事業所当たりの排出量	1.6 t	0.9 t (-43.8 %)	1.4 t (-12.5 %)	155.6 %
減量化量	中間処理による減量化量	6,133 t (72.3 %)	6,563 t (75.3 %)	5,466 t (64.5 %)	83.3 %
最終処分量	埋立最終処分量	926 t (10.9 %)	208 t (2.4 %)	334 t (3.9 %)	160.6 %

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成23年度)	目 標 (平成30年度) A	実 績 (平成30年度) B	実績 B /目標 A	
総人口	31,261 人	29,384 人	27,719 人		
公共下水道	汚水衛生処理人口	1,017 人	4,150 人	2,022 人	48.7 %
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	3.3 %	14.1 %	7.3 %	
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	6,607 人	7,162 人	6,243 人	87.2 %
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	21.1 %	24.4 %	22.5 %	
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	11,390 人	13,692 人	11,584 人	84.6 %
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	36.4 %	46.6 %	41.8 %	
未処理人口	12,247 人	4,380 人	7,870 人	179.7 %	

2 目標が達成できなかった要因

(ごみ処理)

1. 排出量 事業系ごみについては、多量に可燃ごみとして出る紙ごみを減量化できなかったため。
2. 減量化量 新設したエネルギー回収施設(炭化施設)から排出される不適物の量が想定よりも多かったこともあるが、大部分は炭化燃料製造量が想定より多く、処理後の再生利用量が大幅に増加したため。
3. 最終処分量 従来のごみ処理施設に比べ、新設したエネルギー回収推進施設(炭化施設)から排出される灰の量は少量となったが、分別が不十分で可燃ごみに混入する不燃物が多いと思われることから、排出される不適物の量が想定より増加したため。

(生活排水処理)

1. 公共下水道 下水道整備工事が計画より遅れているため。
2. 集落排水施設等 人口減少が予測より多くなったため。
3. 合併処理浄化槽等 年間設置基数にばらつきがあり、当初の想定整備基数を下回ったため。

3 目標達成に向けた方策

(ごみ処理)

1. 排出量 事業系ごみについては、多量に可燃ごみとして出る紙ごみを減量化するため、古紙回収業者による回収の情報提供を行う。また、他のごみの減量化についても啓発活動を行う。
2. 減量化量 炭化燃料製造量が多く、処理後の再生利用量が目標より増加していることから、今後も再生利用に努める。
3. 最終処分量 従来のごみ処理施設に比べ、新設したエネルギー回収推進施設(炭化施設)から排出される灰の量は少量となったが、今後も最終処分量の減量化に努める。

(生活排水処理)

1. 公共下水道 下水道整備率の向上を目指し、現在整備中である。今後も住民説明会や個別通知などの普及・啓発を行い下水道への接続を推進する。
2. 集落排水施設等 広報誌や個別通知などで普及・啓発を行い、集落排水への接続を推進する。
3. 合併処理浄化槽等 市ホームページや広報誌などを通じて、合併浄化槽設置に対する補助制度の周知を更に行っていく。

(都道府県知事の所見)

(ごみ処理)

再生利用量が増加しており、各種取組の成果がでていると思料する。今後は目標達成に向けた方策にある改善案を確実に実施して、特に事業系排出量の削減に取り組んでいただきたい。また、家庭系の一人当たりの排出量は増加しているので、食品ロス対策の推進等についても検討いただき、ごみ減量化、リサイクルの取組みの強化に努められたい。

(生活排水処理)

貴市においては、下水道、集落排水、浄化槽等、複数の污水处理施設を組み合わせ整備することにより、市内の生活排水対策を進めているものと承知している。市内各地区における最新の人口の増減予測等を踏まえて、より効率的な施設配置により整備を進めていただきたい。